

岐阜県病院事業経営健全化計画(平成19年度～平成23年度)の進捗状況について

平成21年度病院事業会計決算確定時点において進捗状況を点検しました。その結果を公表します。

(点検した4つの項目)

地方債現在高	:	年度末における地方債の未償還残高の額です。
職員数	:	年度末における正規の県職員の人数です。
改善額	:	経営改善により生み出した収入増や支出減を合算した額です。
累積欠損金比率	:	累積欠損金と営業収益の比率です。

岐阜県立病院は、平成22年4月1日から地方独立行政法人となりましたが、本書における22年度以降の数値は、目標設定時の会計基準(地方公営企業法)に準拠しています。

地方債現在高

地方債現在高については、新規起債の抑制等により、目標値以下に抑えることが出来ました。今後も、目標を達成できる見込です。

()推移表

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)	28,293	29,423	28,363	28,575	24,792	25,760
実績(見込)値(B)	27,640	27,042	28,036	26,751	23,375	
乖離値(C) (A - B)	653	2,381	327	1,824	1,417	2,385
乖離率(D) (B / A)	2.3%	8.1%	1.2%	6.4%	5.7%	9.3%

職員数

職員数については、目標値以下に抑えることが出来ました。

22年度以降は、地方独立行政法人化により法人職員を職員数から除くことになるため、確実に目標を達成できる見込です。

()推移表

(単位:名)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)
計画目標値(A)	1,654	1,752	1,754	1,778	1,786
実績(見込)値(B)	1,630	1,648	1,646	101	101
乖離値(C) (A - B)	24.0	104	108	1,677.0	1,685.0
乖離率(D) (C / A)	1.5%	5.9%	6.2%	94.3%	94.3%

改善額

改善額については、目標値を達成することが出来ました。

今後も、目標を達成できる見込です。

() 推移表

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	改善額合計	補償金免除額
計画目標値(A)	35	1,145	1,259	934	928	4,301	627
実績(見込)値(B)	715	638	1,946	1,660	1,655	6,614	
乖離値(C) (B - A)	680.0	507.0	687.0	726.0	727.0	2,313.0	5,987.0
乖離率(D) (C / A)	1942.9%	-44.3%	54.6%	77.7%	78.3%	53.8%	954.9%

累積欠損金比率

累積欠損金比率については、昨年度に引き続き目標値を達成できませんでした。

しかし、平成22年度は診療収入が増加しつつあるので、今後は目標を達成できる見込です。

() 推移表

(単位:%)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)	14.2	17.7	25.8	33.2	40.6	4.0
実績(見込)値(B)	11.6	20.6	28.3	31.7	35.2	
乖離値(C) (A - B)	2.6	2.9	2.5	1.5	5.4	31.2
乖離率(D) (C / A)	18.3%	-16.4%	-9.7%	4.5%	13.3%	-780.0%

岐阜県立病院では、平成18年度から21年度にかけて大規模な病棟の竣工が続き、減価償却費等による累積欠損金の増加を見込んでいます。
本計画は、当面の赤字構造を前提として策定されています。

() 要因分析

(単位:百万円、%)

	計画最終年度(平成23年度)	
	計画目標値算出時(A)	実績見込値算出時(B)
分母(営業収益等)	30,405	31,693
分子(累積欠損金)	12,334	11,169
累積欠損金比率	40.6	35.2

() 実績(見込)値が計画目標値に届かない理由

【平成21年度実績が計画目標値に届かなかった理由:地方独立行政法人への移行に伴う基金の創設】
平成22年4月から、県立3病院を地方独立行政法人化するにあたり、経営安定化のための基金を県に設置し、病院事業会計から1,000百万円を拠出した。
仮にこの拠出がなければ、22年度の累積欠損金比率は目標25.8%に対し、実績が25.1%(7,802百万円÷31,061百万円)となり、目標を達成していた。

() 改善に向けた取組み及び今後の見通し

21年度の収支の実績を踏まえれば、同水準を維持すれば、22年度中に累積欠損金比率の目標を達成することが可能である。22年7月末時点での診療収入の額は、対前年比7.5%増加で推移しているため、大幅な改善が見込める状況にある。